

【幼稚園用】

令和〇〇年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

園名										
1 前年度 評価結果の概要										
2 教育目標										
3 本年度の重点目標										
4 重点取組内容・成果指標				中間評価(任意)		5 最終評価				主な担当者
(1) 共通評価項目										
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価(任意)		最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	具体的目標		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●心づくり	○	○	・		・		・		・	
●健康・体づくり	○	○	・		・		・		・	
●幼・保・小連携	○	○	・		・		・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○	○	・		・		・		・	
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	重点取組内容	具体的目標		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○		○	・		・		・		・	
○		○	・		・		・		・	
●... 県共通 ○... 園独自										
5 総合評価・ 次年度への展望										

【幼稚園用】

令和〇〇年度学校評価 計画

「計画」「中間評価」「結果」等をプルダウンメニューより選択

達成度（評価）
 A：十分達成できている
 B：おおむね達成できている
 C：やや不十分である
 D：不十分である

記載例

園名	〇〇立〇〇幼稚園
----	----------

1 前年度 評価結果の概要	・絵本の読み聞かせの機会が園・家庭共に少なくなってきた。 ・園行事前の職員の退勤時間が特に遅い。 前年度の学校評価結果より、成果や課題について概要を記述する。
---------------	---

2 教育目標	「豊かな心でたくましく生き生きと活動する幼児」を目標に、基本的な生活習慣を身につけ、生きる力の基礎を培う。
--------	---

3 本年度の重点目標	①豊かな心と体の育成のために、保護者との連携を強化する。 ②働き方改革の一環として行事の精選を行う。 1 前年度評価結果・2 学校教育目標 及び、各学校や児童生徒の実情・課題等を踏まえ、「今年度特に何を重点とする」を明確にする。 幼稚園の中間評価は任意。「具体的目標」について上記凡例をもとに「A～D」で中間評価を行う。ただし、中間時点で成果指標を計ることができない場合は、具体的取組の進捗状況をもとに判断する。
------------	---

重点取組内容・成果指標	重点取組内容			中間評価（任意）		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	評価項目	取組内容	具体的目標	進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
(1) 共通評価項目	●心づくり	〇絵本や物語、紙芝居などの読み聞かせを通して美しい言葉に触れ、想像する楽しさを味わい心づくりにつなげる。	〇読み聞かせに関する教員のスキルアップを図るとともに、保護者に絵本などの読み聞かせの大切さを知らせる。	B	・教員の読み聞かせ研修会を行う。 ・お薦め絵本などを紹介する展示を行う。	B	・展示会は〇月のみ園行事のため実施できなかったが、それ以外は実施できており、今後も実施したい。 ・毎月、状況に応じて、遊具の正しい使い方、安全な遊び方を知らせ、怪我の予防に努める。	A	・絵本の展示会は、家庭で読み聞かせを行うよききっかけとなり、子供が絵本を大好きになった。	管理職
	●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	〇外遊びに楽しく取り組むことを通じて、体づくりへとつなげる。 〇散歩を通して自然に親しみ、交通マナーを身に付ける。	B	・外遊びの時間の十分な確保 ・遊具の正しい使い方、安全な遊び方を知らせ、怪我の予防に努める。	A	・外遊びの時間を週〇時間確保した。 ・毎回、状況に応じて、遊具の正しい使い方、安全な遊び方を知らせ、怪我の予防に努めた。	A	・いつも子供たちが外で元気に遊んでいる。難しいことにも挑戦するようになり、自分でできる喜びを感じていると思う。	学年主任
	●幼・保・小連携	〇保育参観や授業参観、幼保小中会議及び合同研修を通して円滑な接続に向けた共通理解を図る。 〇小学校、保育園、他の幼稚園との交流を深め、小学校との接続を滑らかにする。	〇保育参観や授業参観、幼保小中会議及び研修を通して就学に向けた共通理解を図る。 〇小学校、保育園、他の幼稚園との交流を深め、小学校との接続を滑らかにする。	C	・幼保小中連絡会議に参加し、職員間で報告を密に行い、共通理解を図る。 ・交流する相手方と開催時期や具体的な内容について、十分に話し合い計画を立てる。 ・小学校、保育園と交流事業を実施する。	B	・〇月までに交流の年間計画を立てることができた。 ・小学校と年〇回、保育園と年〇回交流した。 ・全ての幼保小中連絡会議に参加しているが、全職員への周知はまだできていない。	B	・他園や小中との交流がよくできていて、子どもたちも楽しみにしている。 ・小学校や他の教育機関と密に連携がとれており、小学校入学への不安が軽くなった。	主任保育士
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	〇園務の整理や行事の精選に取り組み、業務の効率化を推進する。	〇行事の数、内容の精選を行い、〇〇%削減する。	B	・行事の前に削減できる部分を検討し、行事の後に削減できた部分が多かったか振り返りを行う。	B	・内容削減は保護者の要望による難しい部分もあり、〇〇%に留まった。 ・全ての行事の前後の会議、打ち合わせにおいて内容削減について検討できた。	B	・保護者も負担と感じる行事もあるので一緒に検討できればと思う。	園長

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	評価項目	重点取組内容	具体的目標	進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
〇基本的な生活習慣の育成	〇望ましい生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん・あいさつ）について保護者と連携して育成する。	〇アンケートにより実態を把握すると共に保護者の意識を高める。回収率100%を目指す。 〇望ましい生活習慣ができていない幼児〇〇%以上	・アンケート内容を検討し、その結果について保護者と一緒に改善策を考え、意識を高めていく。	B	・〇月までにアンケートを実施できたが、回収率は〇〇%であった。 ・一部の保護者とまだ相談ができていない。 ・年度当初の1回、クラス懇談会で望ましい生活習慣の重要性について伝えた。	A	・アンケート未回収も含めて全ての保護者と相談できた。 ・年〇回、クラス懇談会で望ましい生活習慣の重要性について伝えた。 ・望ましい生活習慣ができていない幼児〇〇%で年度当初よりかなり改善できた。	A	・基本的な生活習慣の育成には、家庭の理解と協力が不可欠である。繰り返し伝えてほしい。	副園長

5 総合評価・次年度への展望	本年度の重点目標に対して、共通評価項目に当てはまらないものがあれば独自評価項目として設定する。全て共通評価項目に当てはまっていれば、設定する必要はない。 中間評価（進捗度）の根拠となる進捗状況を記載。評価が高いものについては多くを記載する必要があるが、評価が低いものについては改善策を含めた見通しを記載する。やむを得ない事情がある場合はその内容を記述する。また、教育委員会に求めるフォローアップ等があれば記載する。 「達成度」の根拠となる「取組内容」と「成果指標」の結果を記載する。
----------------	---

公表する場合は、氏名ではなく役職等で記載する。

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	太良町立大浦小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 成果目標をしっかりと意識ながら、全職員一丸となって教育活動に取り組み成果を上げることができた。中間評価を行う際に進捗状況をしっかりとふり振り返り、その後の対策を立てたことで、最終評価では3つの項目でB評価からA評価となった。 学力向上については、これまでの取組が確実に児童の力となっている。また、自己肯定感や自己有用感を高めるような取組、児童が運動に親しむことができるような取組を充実させ成果が出たことがとてもよかった。 教職員の働き方に対する意識が高まってきている。今後も、業務内容の工夫改善を推進し、教職員がチーム一丸となって職務を行うことができるような環境づくりを行っていききたい。
2 学校教育目標	ひこばえの心もち、強く・かしこく・美しく生きる子どもの育成を図る
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 確かな学力の向上、及び主体的・対話的に学び自信をもって表現する子どもの育成を図る。 ② 自己肯定感や自己有用感をもち、人を思いやる豊かな心の育成、及び、ふるさと大浦を誇りに思う心の育成を図る。 ③ 粘り強く何事にも挑戦する児童の育成、及び、自他ともに健康と命を大切にしている態度の育成を図る。 ④ 働き方改革に対する教職員の根本的な意識改革の充実を図る。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者	
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価			
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価 評価 意見や提言
●学力の向上	○自ら主体的に考え、友だちと共に学び合う子供の育成	○「自らの考えを伝えたり友だちと比べて考えていることができる」と回答した児童80%以上。 ○「タブレットを使った授業は分かりやすい」と回答した児童80%以上。 ○「タブレットを使った授業実践に取り組んで有効な活用法を考えた」と回答した職員80%以上。	・授業づくり1・2・3を踏まえて実践していく。 ・家庭学習の定着や自主学習の奨励。 ・読書力を高める取り組み(音読集会・辞書引き学習・読書の奨励) ・タブレットを活用した授業実践に取り組む。どのような活用をすれば有効であるのかを実践や研修を通して明らかにしていく。					確かな学力PJ	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分にはよいところがある」「自分は誰かの役に立っている」の項目で肯定的な回答をした児童90%以上。	・道徳の授業や人権集会などを通して、自他の生命の大切さについて考える授業に取り組む。 ・QUNアンケートに関する校内研修を実施する。 ・学級活動で構成的グループエンカウンター授業に取り組む。 ・きらきらの森の取り組みを通して、自己肯定感や自己有用感を高める。					豊かな心PJ	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「まわりの人たちが、困っている人に優しくしている」の項目で肯定的な回答をした児童90%以上。	・心のアンケートを実施し、いじめの早期発見と同時に事業発生時は迅速な対応を行う。 ・年2回、担任と児童とで教育相談を実施し、児童の状況の把握と信頼関係の構築を行う。 ・毎週子ども支援連絡会を実施し、教師間の情報共有かつ指導の統一を図る。					豊かな心PJ	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童95%以上	・日頃から行事や係活動など児童が活躍できる役割や機会を与え、励みになるような承認、称賛の言葉かけを行う。 ・道徳の授業や学級活動等で夢や目標をもって行動することの大切さを児童が実感することができるように、手立てや声かけを行う。					豊かな心PJ	
	○基本的な学校生活習慣の定着	○「あいさつ上手、片づけ上手、すごし方上手、お話し上手」の項目で「よくできる」と答える児童90%以上	・毎月、クラスや全校集会で生活目標の振り返りを行い、継続と意識の向上を図る。 ・全職員で廊下走りなどを見つけた際は必ずやり直しをさせたり、いい行いは褒めるなどしていく。					豊かな心PJ	
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○ひこばえがんばりカードで就寝時間を守ることができる児童85%以上 ●学校評価アンケートの「健康に良い食事をして」という項目で肯定的な回答をした児童90%以上	・ひこばえがんばり週間に各担任がカードに目を通し、適宜指導する。 ・必要に応じて個別指導をしたり学級通信等による家庭への啓発をしたりする。 ・各学年の担任が栄養教諭と連携し、食育の授業を年1回は行う。 ・栄養教諭による給食訪問を複数回行い、食に関する興味関心を高める。					健やかな体PJ	
	○運動に親しむ児童の育成	○「授業や休み時間など学校生活において体を動かすことが好きだ」と回答する児童85%以上	・委員会主催で、スポーツフェスタを年2回行う。 ・サガンキッズへの積極的な参加を促すために、体育主任より種目の紹介等、取り組みやすいような環境を整える。 ・外遊びの推奨をする。					健やかな体PJ	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・自分の勤務状況を確実に把握するために出勤退勤カードの管理を確実に行うとともに、毎日予定ボードに必ず退勤予定時刻を明記し、見直しをもって業務を行うようにする。 ・職員がワークライフバランスを考慮して勤務する習慣を身につけることができるように、職員会議や職員連絡会等で職員に話を行い共通理解を図る。 ・長期休業中の行事をスリム化し、年休を取りやすい環境づくりに取り組む。					校長・教頭	
	○学校組織力の向上 ・ブロック制による学年経営 ・プロジェクト制による校務運営 ・各種主任、コーディネーターのリーダー性の向上	○「プロジェクトやブロック制を意欲的に業務ができた」と答える教員90%以上 ○「担当分野の内容改善を進んで行った」と答える職員90%以上	・ブロック主任、各職員は年間を通じて定期的に情報の共有を行う。学年経営ブロック主任は、教育活動が円滑に行われるように進捗状況を把握する。 ・プロジェクトリーダーを中心として、毎月の取組での重点的事項について内容・方法の検討や工夫・改善を行う。担当だけに業務が偏らないように、プロジェクト内での協力体制をつくる。					校長・教頭	
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○「特別支援に関する専門性や意識が向上した」と答える職員95%以上。	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・子ども支援会議等で情報共有すると同時に適宜ケース会議を開催して個別の支援の対応を図る。					特別支援教育コーディネーター	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価 評価 意見や提言
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)							
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
--------------------	---